

## 令和3年度伊予市総合教育会議 議事日程

1 日 時 令和3年10月20日(水) 午後2時30分から

2 会 場 伊予市役所4階 大会議室

### 3 出席委員

|          |         |
|----------|---------|
| 伊予市長     | 武 智 邦 典 |
| 教育長      | 上 岡 孝   |
| 教育長職務代理者 | 矢 野 ひとみ |
| 教育委員     | 高 橋 久美子 |
| 教育委員     | 片 岡 英 富 |
| 教育委員     | 長 見 美 保 |

### 4 会議に出席した事務局職員

|            |         |
|------------|---------|
| 事務局長       | 佐々木 正 孝 |
| 学校教育課指導主幹  | 灘 岡 雅 人 |
| 学校教育課課長補佐  | 福 岡 富美子 |
| 学校教育課課長補佐  | 田 中 富 美 |
| 学校教育課      |         |
| 学校給食センター所長 | 川 本 英 人 |
| 学校教育課係長    | 水 野 知   |
| 社会教育課長     | 泉 一 人   |
| 社会教育課課長補佐  | 北 岡 康 平 |
| 社会教育課課長補佐  | 堀 内 和 美 |

### 5 協議事項

伊予市学校等施設長寿命化計画の実施について

午後2時30分 開会

○佐々木局長 開会

最初に、武智市長からあいさつを申し上げます。

○武智市長：平日のそれぞれにお忙しい時間にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

平素より上岡孝教育長をはじめ、高橋久美子教育委員、片岡英富教育委員、そして矢野ひとみ教育長職務代理人、長見美保教育委員。大変お世話になっております。

やはり伊予市にとっても子どもは宝ということで、未来につながる伊予市、3万人が住み続けられる自治体のためには、今の子どもたちがやはり、この伊予市に魅力を感じてもらわないと駄目ですよということは、職員の前でも言っております。今日は長寿命化計画という位置付けの中で、もろもろ教育委員さんの中でももんできたお話の、ある意味決定的な話の共有をするということになります。どうかなという問題点も何点かありますけれども、教育委員会の総合教育会議ってというのは、そういったものも含めてお互いが忌憚（きたん）のない意見を出し合いながら、誰のためかという、子どもたちのために紡ぐ会だと思ってますんで、よろしくお願いを申し上げまして、ごあいさつに代えさせていただきます。

○佐々木局長：ありがとうございました。

続いて協議事項に入りますが、伊予市総合教育会議設置要綱第4条に、市長が議長になるとなっておりますので、以下の協議につきましては武智市長進行でよろしく願いいたします。

○武智市長：はい。まず、本日の総合教育会議開催にあたりまして、傍聴人の希望がないことで進めさせていただきます。

それでは早速ではございますが、協議事項に入らせていただきます。まず、伊予市学校等施設長寿命化計画の実施について、どのようになるか事務局から説明を申し上げます。

はい、佐々木事務局長。

○佐々木事務局長：はい。それではまず、長寿命化改修とは何かについて、説明を申し上げます。

長寿命化改修とは、老朽化した建物について物理的な不具合を直し、建物の耐久性を高めることに加え、建物の機能や性能を、現在の学校が求められている水準にまで引き上げる改修を行うことをいいます。これにより、建物を将来にわたり長く使い続けることができ、工事費は大幅に縮減できる一方、結果は改築と同等となり、費用対効果は非常に大きくなります。そこで本市では、令和2年4月に、伊予市学校等施設長寿命化計画を策定し、校舎等の長寿命化改修を実施することとし、令和4年度から着手予定としておりますが、対象校が多いため、市財政を圧迫することとなりますので、児童・生徒が学校内で安全安心、また、快適に過ごすためには必要な事業と考え、教育委員会として今後の事業進捗をお願いするために、本日の議題として提案しております。

それでは、これからは資料に沿って説明申し上げます。資料1ページをお願いいたします。まず、長寿命化計画策定の背景と目的につきましては、背景として、全国的に公立小中学校施設は1971年から74年に建築されたものが多く、建築後25年以上経過した建物の面積が、全体の約7割となるなど、校舎等の老朽化が大きな課題となっております。本市におきましても、学校施設は継続的に整備してまいりましたが、築年数が30年以上となる施設の面積が50%以上となっており、今後さらなる老朽化が予測されます。2013年11月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」国土交通省が作成しておりますものですが、各地方公共団体は2020年ごろまでに個別施設ごとの長寿命化計画（個別施設計画）を策定することが求められており、本市におきましては、2016年8月に「伊予市公共施設等総合管理計画」の策定に基づき、昨年度この長寿命化計画のほうを策定しております。

目的といたしましては、令和2年4月にこれらの背景を踏まえ、老朽化が進む学校施設の現状を維持し、中長期的な視点から計画的に維持管理を行い、トータルコストの縮減や平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能性の確保をすることを目的として、先ほど申し上げております、本計画を策定いたしております。なお、この計画期間は、上位計画である市総合管理計画が10年間で更新されることから、2021年から2030年度までの10年間としております。

次に、学校等施設の目指すべき姿を申し上げます。当然のことながら、1に安全性、2に快適性、3に利用者ニーズへの適応性、4として環境への適応性、5として地域の拠点化、6として持続可能性、この6点が挙げられると考えております。

2ページをお願いいたします。本市における教育大綱に掲げる基本方針により、目指すべき姿を整理すると下の図のようになってまいりますが、環境への適応性および持続可能性につきましては、環境教育の一環として、環境に配慮した施設整備を進めることや、維持管理等のランニングコストを減少して財政負担を減らすことが必要となるため、学校等施設の整備における目指すべき姿の中に追加させていただいております。この教育大綱につきましては、昨年度、この総合教育会議のほうで見直しのほうを議論いただいたものでございます。

3ページをお願いいたします。現在の伊予市の学校施設の実態でございます。市内の小学校9施設、中学校4施設、幼稚園2施設、給食センター1施設となっており、下表に示す棟数が現在あるところでございます。

例えば南山崎小学校であれば、棟数として2。北山崎小学校であれば、棟数が3というふうなことで、現在伊予市におきましては51棟が挙げられているところでございます。

4ページをお願いいたします。学校等施設の園児・児童・生徒数および将来推計をいたしておりますが、本計画で児童・生徒・園児数の将来推計を行った結果、40年後には約60%まで減少することが予測され、年少人口の減少に伴い、学級数も徐々に減少していくことが予測されております。

次に、対象施設の劣化状況調査のほうをいたしております。5ページ以下になりますが、建

物の構造躯体の健全性といったしまして、長寿命化において建物を長期間使用をしていくためには、構造躯体、建物の構造を支える骨組みでございますが、こちらが健全であることが必要であるため、下図の判定フローと老朽化等に基づき判定を行っております。以上の構造躯体の健全度判定を行った結果、次のページの表で示すとおり、全ての対象施設が長寿命化と判定されております。

6 ページの、構造躯体の健全度判定の表をお願いいたします。それぞれの施設名が挙がっておりますが、表の一番右端の欄「健全性」のところは全て「健全」となっており、その左のところの「長寿命化判定」のところにおきまして、「試算上の区分」という欄におきまして「長寿命化」というふうな記載が全ての施設に挙げられておろうかと思えます。こちらのほうの判定におきまして、本市における全ての建物につきまして、長寿命化計画の対象施設というふうなことが考えられることとなっております。

7 ページをお願いいたします。構造躯体以外の劣化調査といたしまして、構造躯体以外の建物5項目「屋上・屋根」「外壁」「内部仕上げ」「電気設備」「機械設備」については、次の基準により判定いたしております。下の表にAからDまで挙げられておりますが、Aが「概ね良好」、Bが「部分的に劣化」、Cが「広範囲に劣化」、D、赤の印がありますが「早急に対応する必要がある」。この4項目で評価しております。

この構造躯体以外の劣化状況は次のページの表で示すとおりですが、対象施設においては各部位の劣化状況がD判定の建物はなく、健全度は比較的高いことが把握できておりますが、一方で、中山小学校、あるいは中山中学校の校舎においては、各部位で全体的劣化が進行しているため、優先して改修等の対応が必要となっておる判定が出ております。

8 ページをお願いいたします。今、ご説明申し上げましたとおり、各施設における劣化状況調査結果でございます。各施設におきまして、BからCの判定のほうが出てきておりますが、先ほど申しましたとおり、D判定、早急に対応する必要がある判定の部分につきましては、本市における施設では見受けられておりません。ただ、健全度とは、上記基準により判定された評価を基に、100点満点で数値化した評価指数でございまして、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示しておる次第でございます。以上のようなことから、学校等施設整備の基本的な方針を考えております。

9 ページになります。長寿命化の方針として、厳しい財政状況の下で効率的、効果的に老朽化対策を進めるためには、従来のように建築後40年程度で建て替えるのではなく、コストを抑えながら建て替えと同等の教育環境を確保することができ、排出する廃棄物量の少ない長寿命化改修への転換が求められており、改築と大規模改造の従来型と、長寿命化型による維持・更新を行った場合の今後40年間のコストを試算すると、次のページに示すとおり、年平均9億円から約5.4億円まで低減が可能となっております。

10 ページの表をお願いいたします。上段の表のほうが従来型建て替え等を行う際のコスト計

算の表でございます。40年間の総額といたしまして、計画では、見積りでは約371億円、40年間の平均といたしまして、年9.3億円の費用が掛かるような計算になってまいっておりますが、長寿命化型になりますと、40年間の総額が216億円、平均といたしまして、年5.4億円というふうに経費節減のほうが見込まれる次第でございます。このようなことから、建て替えるということではなく、現在の建物を長寿命化改修していくというふうなことを今後、本市におきましてもとっていく必要があると考えております。

11ページをお願いいたします。そこで、長寿命化実施計画のほうを、この計画策定時に考えておりますが、劣化が進んだ施設から順に改修を予定しております。ただ、1番の佐礼谷小学校といたしまして、劣化が進んでおるということで、最初の長寿命化改修というふうなところを挙げさせていただいておりますが、この計画におきましても見直しというふうなところが必要になってこようかと考えておりますので、この辺りにつきましては、今後また見直しをさせていただくことになると思います。なお、この計画によりまして、次年度から着手予定と考えております。令和2年時に、計画作成段階で一度、教育委員の皆さま方からご意見を頂戴しておりますが、実施段階になりましたので、改めてご意見をお伺いしたく、今後の事業進捗の基本とさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。なお、参考といたしましては、次年度につきましては、優先順位3番の中山小学校の一番上の校舎、RC1,351平米、1971年の建築で、築49年を経過しておる、この校舎部分につきまして、予算計上のほうを考えておる次第でございます。今後、この長寿命化工事の今後の事業進捗につきまして、教育委員さん方のご意見のほうを頂戴したいと考えます。

以上、簡単でございますが、説明を終わります。

○武智市長：はい。ありがとうございました。ただ今、佐々木局長の説明のあった内容につきまして、ご質問・ご意見等ございましたら、挙手をして発言願います。

付け加えますと、この改修にあたっては過疎債を使います。過疎債っていうのは充当率100%で、合併債よりも有利なんですね。合併債っていうのは95%の充当率で、7割を国が元金金利をみてくれると。過疎債は100%の充当率で、国が元金金利を7割みてくれるということなんで、非常に有利になるので。だから、その過疎債も学校だけに過疎債使うわけにいけないので、ある程度優先順位とローテーションを考えながらやると。今の説明では、中山小学校をまず第一に考えてやると。基本的には、これを改修したら、根本的に国の縛りは、その学校は30年間は継続してくれないと駄目だよ。できなかつたらお金返してねっていうふうになります。だから、そこに児童数の経緯とかもろもろをしっかりと構築してやらないと駄目だよっていうところはあります。補足ではないですけど、情報としてお伝えしておきます。

特にないようですので、一応計画に沿って、一部見直しもあるかもしれませんが、大原則、この皆さん方が見てる資料に沿って、今後計画を立てていきます。そういうことになりますので、よろしくお願いいたします。私ね、この総合会議は情報の交換の場だと思ってるん

ですよ。子どもたちの未来に関わることで何かあれば、せつかくの機会なので、ぜひしゃべってください。

○矢野委員：はい。

○武智市長：矢野委員、お願いします。

○矢野委員：中山町のことで。市長さんが、校舎の中山のことが出て、それから児童数、生徒数のほうもこれから検証するっていう。もちろん、子どもの減少がやっぱり一番、その地域の教育委員をされていて悩むというか、保護者のほうからいろんな話が、耳に入ってくる。なくなったらこれは大変だ、これももちろん地域の方、私も閉校を経験していて、とにかく学校が地域のコミュニティ、それから文化の拠点であるっていうのはもう常に思ってるんで。2 つなくなって本当にコミュニティが崩れて、そして人口も減ってきたというふうな、身をもって実感してるので、何とか中山小中は存続をさせたいと、もちろん佐礼谷もですけど。そのためにはやっぱり、今のままではいけないっていう。そしたらどうすればいいか。やっぱり何か特徴のあることが、これは全く、自分がどうのこうのって具体的な考えを持ってるというふうなことはされてないんですけども、中山小中で何か他校にないようなこと、他県にないようなものもやっぱりいずれはつくらないと、30 年間、本当にもつかなという。それがもう一番の悩みです。どこでどういっても自分は具体策ないし、もちろんそんな力もないのでどうこう言えないんですけど、皆おんなじ気持ちで日々生活している。本当に極端に言えば、小学校 5 人卒業して、中山中学校に今年 5 人入学するねって、5 人入ってくるねって言うたら、その中の 1 人が、いや、中山中学校に入ったら自分の希望する部活がないからもう来ないっていうふうなことが現実で起こっている。これからもしそんななんかが増えてきたら、もちろん他の中学校に行っちゃ駄目なんかは言えませんからね。住所移してまで行くというなら。だから、そういうふうなことになったら、本当このままでいったら中山小中が心配だなんて。何かこう特区をつくって、もう英才教育をすとかやってくればありがたいなど。

○武智市長：まさに矢野さんおっしゃるとおりで、5 年前に作成した伊予市総合計画のプラスアルファで、「誰一人置き去りにしないコミュニティ」形成の中で「誰一人取り残さない伊予市」未来ビジョン、3 万人が住み続けられる自治体を目指しますと。今、中山は 2,800 人ですよ、人口。恐らく 10 年後、2,000 人前後になるかもしれない。でも、ある意味、中山の人たちを見ると、本当に地域を愛する情熱と、中山という地域を誇りに思う矜持、これを持たれてます。その地域を愛する情熱と矜持があれば、しっかりと後継者をつくれば、中山が 2,000 人になっても未来につながる町になるだろう。旧の伊予市も他人事やないし、双海も 3,500 人が 3,000 人ぐらいになると思うけど、他区の人らも本当に情熱と矜持持ってる。旧の伊予市もそれぞれ頑張ってる。

今、魅力の発信ということで、有事の際の災害復旧であったりワクチン接種、そういったことはもうしっかり行政が責任持ってやりますけど、これからの時代はそれぞれの地域にお住ま

いの方々が、それぞれの地域で培ってきた歴史、文化、慣習、そういったものを、しっかりと温めた知恵を、行政とタッグ組んでつくっていかないと駄目ですね。

そして、やはり一番大事なのは、今の子どもたち。そして、この令和の時代にこれから生まれるまだ見ぬ子どもたちが大人になって、やっぱり家を建てるならこの伊予市がいいよね、この中山がいいよね、この双海がいいよね。そう思ってもらえる機運を醸成しないと、3万人なんか夢の夢の夢物語だと。まず子供がいないと学校の存続ないんで。だから、移住者等々も増やしながらか、そして、今の子どもたちが、中山の子どもたちが、もう20年後っていったら立派な大人でしょ。そこに中山で居を構えようという、ある意味魅力の発信というのもしないと、それはもう先細りですよ。

交通の便からしたら中山駅もあるけど今後考えていくのは、デマンドタクシー。これを中山の人が伊予市まで来れるようにせえと。双海の人が伊予市まで来れるようにせえ。病院行くにしても、はい中山来てえな、いうて中山駅まで行く、電車待って伊予市行く、降りる、医者にかかる、電車待って乗る、中山駅に着く、デマンド来て迎えに来てえなと。これでは駄目。そういうことも考えていきます。

要は、中山に住んどって何の不便も感じないようにしないと駄目。だから今、中山双海も含めて一応、電話のかかる光回線も敷設をせえと。どこに住んでも同じ条件で同じサービス受けられるためには、そういう形をとらないと駄目だよ。移住者がどこに来てネットでもばっばっば商売できるようなところじゃないと駄目だよ。ということをやります。5Gも使えるように必死にします。そうしないと、全てにおいて3万人が住み続けられるとことか、誰一人置き去りにしないっていうことはうそになるから。どういう形がいいのか、またいろんなアイデア借りながら、中山の未来、双海の未来、同様に旧の伊予市の未来、考えていきたいなと思ってますんで、またいいアイデアがあったら、ひらめいたら言ってきてください。お願いします。

○矢野委員：ありがとうございます。

私たち教育委員会も学校訪問をしたときに、教育長さんをはじめ、教育長さんもたいてい言うてくださるんですけど、特に中山とか、それから双海町等に住んでいる子どもたちを指導している校長先生にはもう強くお願いして、地元を愛する子ども、地元の良さを分かる子ども、それから地元に残る子どもを育ててくれっていうのは、いつも言うて回ってはいるんですけど、それぐらいしか今のところは、本当なかなか難しい時代です。市長さんのお話を聞いてて、何かこう、夢が沸いてきました。

○武智市長：就職するにしても大学行くにしても、やっぱりこの地元で働こうとか、地元に戻ってこようという何かを、高校の教育委員会とか大学もモチベーションやってもらって。素晴らしい企業いっぱいあるんですよ。だから、そういうモチベーション伸ばすための、やっぱり段取りを学校側がしてもらわんといかんのかなと。要は、松山の大学行ってもどこでもいい、

伊予市に居を構えて、伊予市で子どもをつくって学校へ行ってもらわないと、今言うふうに 30 年も、それ本当についていう話になるんです。

そんなことでいろいろとお話は尽きませんけれども、本日の議題は全て終了いたしました。本日は、皆さまご多忙中にもかかわらずご出席賜り、慎重なご審議をいただきまして誠にありがとうございました。以上でこの教育会議を閉じさせていただきます。

○佐々木局長：一同、ご起立願います。礼。

○武智市長：お疲れさまでした。

○佐々木局長 閉会。

午後 3 時 30 分 閉会